

病害虫情報(第4号)7月予報

平成30年6月29日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、抑制トマト、イチゴ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 7月の気象予報と病害虫発生予想の根拠 14

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成30年6月13日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病(葉いもち)	並	△	(予) オリゼメート粒剤 [初発10日前～初発時,14日,2回] 3～4kg/10a (予・治) オリブライト1キロ粒剤 [出穂10日前まで,45日,1回] 1kg/10a (予・治) コラトップ粒剤5 [初発10日前～初発時,2回] 3～4kg/10a 等 ◆ 発生を認めたら直ちに防除。山間谷戸田等常発地では発生に注意。
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	並 (並)	○	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a 等 ◆ ヒメビウンカは、縞葉枯病を媒介する。
セジロウンカ	並	△	◆ 5月上中旬植えの水田では、ヒメビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。
ツマグロヨコバイ	やや少	△	◆ 5月下旬以降植えの水田で箱施薬を行った場合には、この時期の防除は不要だが、ヒメビウンカの今後の発生状況に十分注意する。 ◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を平成30年5月1日に発表。
イネツトムシ	—	○	パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a パダンSG水溶剤 [21日,6回] 1,500倍 スミチオン乳剤 [21日,2回] 1,000倍 等 ◆ 6月25日時点で第2世代予測孵化日は平年より4日程度早まっている。詳細は「防除情報(病害虫情報 号外 第5号)」を参照。
斑点米カメムシ類	—	—	◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ◆ 水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:早(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロ アザミウマ	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 隣接する防風垣や茶樹が発生源になりやすい。
ミカンハダニ	並	△	マイトコーネフロアブル [7日,1回] 1,000~1,500倍 等 ◆ ハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。
ミカンサビダニ	—	△	ダニカット乳剤20 みかん:[14日,1回] 1,000~1,500倍 みかんを除くかんきつ:[60日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育:やや早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 1,500倍 (予・治) ストロビードライフロアブル [前日,3回] 3,000倍 等
ナシヒメシンクイ (発生時期)	並 (やや早)	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 ロディー水和剤 [前日,2回] カメムシ類:1,000倍 シンクイムシ類:1,000~1,500倍 等
カメムシ類	並	△	◆ ナシヒメシンクイの第3、4世代の幼虫を対象とする防除は、前世代の成虫発生ピーク直後が適期である。本年の防除適期は、7月上~中旬及び8月上旬と予想される(小田原、伊勢原)。 ◆ カメムシ類、ナシヒメシンクイの発生状況は、ホームページの最新情報を参考にする。
ハダニ類	やや多	○	ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等 ◆ 梅雨明け後に防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) ホライズンドライフフロアブル [21日,3回] 2,500~5,000倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ランマンフロアブル[14日,3回] 1,000~2,000倍 (予) Zボルドー [-,-] 500~800倍 + クレフノン [-,-] 100倍 等
黒とう病	やや多	○	(予・治) ホライズンドライフフロアブル [21日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。
晩腐病	—	○	(予・治) オーシャインフロアブル [7日,2回] 黒とう病:2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	並	○	ディアナWDG [前日,2回] 5,000~10,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予・治) ストロビードライフフロアブル [14日,3回] 3,000倍 等
カキノヘタムシガ	—	○	アタブロンSC [14日,3回] 4,000倍 ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 等 ❖ 平年の防除適期は、8月上旬だが、本年はやや早い可能性がある。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育: やや早(北相地区事務所研究課: やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	やや少	○	【二番茶摘採後】 (予・治) ストロビーフロアブル [10日, 3回] 2,000～3,000倍
輪斑病・ 新梢枯死症	並	○	(予・治) オンリーワンフロアブル [7日, 2回] 炭疽病: 2,000～3,000倍、新梢枯死症: 2,000倍 等
チャノホソガ	並	○	【二番茶摘採後】 エスマルクDF [発生初期, 7日, -] チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ : 1,000倍
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモ ンハマキ	やや多	○	スピノエースフロアブル [7日, 2回] チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャノキイロアザミ ウマ: 2,000～4,000倍
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや多	○	チャハマキ: 4,000倍
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	アドマイヤー顆粒水和剤 [7日, 1回] チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノキイロアザミウマ: 5,000～10,000倍 等
カンザワハダニ	並	○	【二番茶摘採後】 バロックフロアブル [14日, 1回] 1,000～3,000倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
葉かび病	やや少	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 葉かび病:2,000倍、うどんこ病:2,000~4,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000~4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍												
アブラムシ類	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000~3,000倍												
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	やや多	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍												
タバココナジラミ	やや多	○	ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000~4,000倍、												
アザミウマ類	多	○	コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍												
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>GSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	GSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
GSNV(トマト茎えそ病)															
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。												
オオタバコガ	並	○	コテツフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日,3回] 2,000倍												
			◆ 極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性がある のでよく確認し捕殺する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	やや少	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000～1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 ◆ 肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。										
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍										
アブラムシ類	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000～3,000倍、 アザミウマ類:2,000倍										
コナジラミ類	やや多	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍										
オンシツ コナジラミ	やや多	○	ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍										
タバココナジラミ	やや多	○	アフーム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍										
アザミウマ類	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPPV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPPV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPPV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	やや多	○	◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等
アザミウマ類			❖日照不足、多肥、高温、過繁茂の状態になると蔓延しやすくなる。
ミナミキイロ アザミウマ	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 コテツフロアブル [前日,4回]
ミカンキイロ アザミウマ	やや多	○	ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレバゾンフロアブル5 [前日,2回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 カネナイトフロアブル [前日,1回]
チャノホコリダニ	やや多	○	ハダニ類:1,000~1,500倍、チャノホコリダニ:1,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
さび病	並	○	(予・治) アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 (予・治) サプロール乳剤 [前日,5回] 800~1,000倍 等
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:株元散布】 ダントツ粒剤 [3日,4回] ネギアザミウマ:3~6kg/10a
シロイチモジヨトウ	—	△	【生育期:散布】 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 ハチハチ乳剤 [7日,2回] 1,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類:500~1,000倍 等
			❖ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>(予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前), 6回] 600倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前, 3回] 1,000倍</p> <p>☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>◆ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。 ◆ 発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。</p>
うどんこ病	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>(予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) トリフミン水和剤 [前日, 5回] 3,000～5,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [収穫開始14日前, 3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍</p> <p>◆ うどんこ病は育苗期からの防除が重要。 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。 ◆ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ◆ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。</p>
ハダニ類	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日, 1回] 1,000～1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍</p> <p>◆ カネマイトは薬害を生じる場合があるので注意する。 ◆ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3日程度の間隔で複数回散布する。</p>

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

タフパールとの散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ セイビアー、サンヨール、カリグリーン、トリフミン:3日以上、
 アントラコール、ジマンダイセン、ゲッター:7日以上、ベルコート(水和剤):10日以上

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	やや多	○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1~2g/株 【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロッソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 又はベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 【育苗期:散布】 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 等 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。
タバココナジラミ	やや多	○	
アザミウマ類	やや多	○	❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
つる枯病	やや少	○	(予) アントラコール顆粒水和剤 [前日,4回] 400～600倍 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500～2,000倍 等
炭疽病	やや少	○	☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となるため、大雨による冠水の影響に注意。
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500～2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチフロアブル [前日,2回] 1,000倍 等
アブラムシ類	多	○	ハチハチフロアブル [前日,2回] アブラムシ類:1,000～2,000倍、アザミウマ類:1,000倍
アザミウマ類	多	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 アグリメック [前日,3回] アザミウマ類:500～1,000倍 等
ハダニ類	並	○	アグリメック [前日,3回] 500～1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カボチャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
疫病	—	○	(予・治) フォリオゴールド [7日,3回] 疫病:1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【メロン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治) ベルコート水和剤 [前日,5回] うどんこ病、つる枯病:1,000倍 (予・治) フォリオゴールド [3日,3回]
つる枯病	やや少	○	うどんこ病、つる枯病:800倍、べと病:800~1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。
べと病	—	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ つる枯病は、多湿条件で発生しやすい。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 7月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部6月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	40%	40%	20%
日照時間*	20%	40%	40%

*6月21日発表1か月予報による。

(2) 7月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (葉いもち)	少	並	1) アメダスデータを元に計算した葉いもち病感染好適日の出現は、6月25日現在、平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	少	並 (並)	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯への誘殺数は平年並。(±) 3) ヒメトビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は過去10年並。(±) 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺数は平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	そうか病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	かいよう病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が過去8年の平均並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ナシヒメシンクイ (発生時期)	－ －	並 (やや早)	1) フェロモントラップへの第1世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)と伊勢原では平年並。(±) 2) 第2世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、平年よりやや早いと予測される。 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ニセナシサビダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、モザイク症状を含めた発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発病が見られず発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	黒とう病	－	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	－	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)とも平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(根府川)では平年よりやや少なく(－)、伊勢原では平年並(±)、山北ではやや多い(＋)。 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	輪斑病 新梢枯死症	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年よりやや多く(＋)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より少ない(－)。 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北は平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)は少ない(－)。 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	葉かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや多 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より多く(＋)、タバココナジラミの発生が平年並(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	アザミウマ類	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ハモグリバエ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	露地 キュウリ	べと病	少	やや少
うどんこ病		少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
アブラムシ類		少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
オンシツコナジラミ タバココナジラミ		少 少	やや多 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや多く(＋)、タバココナジラミの発生が平年より多い(＋)。 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ		少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの寄生は見られず発生が平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年並(±)。 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
ナス		うどんこ病	少	並
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	やや多 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ハモグリバエ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	チャノホコリダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成30年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が過去9年の平均並。(±) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
	ネギアザミウマ	多	並	1) 巡回調査では、発生が過去9年の平均よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
抑制トマト	オンシツコナジラミ	－	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より多く(+)、タバココナジラミの発生が平年並(±)。 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	タバココナジラミ	－	やや多	
	アザミウマ類	－	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
露地野菜全般	ハスモンヨトウ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±) 3) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±) 3) 巡回調査では、トマト、ナスでの被害は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)

三浦半島地区野菜

病害虫名	(作物名)	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ)	少	やや少	1) 巡回調査では、スイカ、メロンでは発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
	(メロン)	少	やや少	
炭疽病	(スイカ)	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(－)
うどんこ病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、カボチャでは発生が平年並(±)、メロンでは発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(±)
	(カボチャ)	中	並	
	(メロン)	少	やや少	
アブラムシ類	(スイカ)	少	多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
アザミウマ類	(スイカ)	中	多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)
ハダニ類	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、スイカでは寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は高く、降水量は平年並または少ない予報。(＋)

※ 「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(マネージ、ルビゲン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロボーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(ルビゲン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回